

学 界 消 息

1. 気象庁発足

中央気象台は7月1日から、気象庁に昇格し、新しい一歩を踏み出した。

2. 北岡氏帰朝

北岡竜海氏はスイスのパイエルンにおける第2回ラジオゾンデ国際比較観測に出席し、ドイツのラーベンスベルクで行われた国際オゾン委員会主催の大気オゾンに関するシンポジウムに出席した後、ドイツ、フランス、イギリス、インドにおけるオゾン観測、高層観測を視察し、去る7月9日に帰朝された。日本だけは一回の観測失敗もなかった由。

3. 北海道地方の低温

5月半ばから現在(7月13日)まで北海道および東北地方北部では、低温がつづいている。札幌では5月半ば以後の半旬平均気温は平年より平均して1.4度低く、網走では同じく、2.7度低い。これはオホーツク海高気圧に伴う下層の寒気によるものと考えられている。

航空気象に関するシンポジウム

日本気象学会 主催
日本航空学会

昨年来2回にわたり航空気象に関するシンポジウムを気象・航空両学会の共催のもとに開いて参りました。回を重ねるに従ってますます盛んになって参りました。

本年も同じ要領で同シンポジウムを開きます。広範囲のご参加をねがいます。

日 時 9月21日午前10時

療養地気候に関するシンポジウム

主催 日本気象学会 後援 厚生省国立公園部
日本温泉気候学会 日本温泉協会

わが国に豊富に存在している温泉地、療養地をレクリエーション療養等に効果的に利用するためには、泉質の物理、化学的な解明のみならず、その土地の気温、湿度、気圧およびその変動、紫外線、照明、気膠質、気候などの非特異的な作用因子を生気候学的に解明しなければなりません。このたび日本気象学会と日本温泉気候学会の共催のもとに厚生省国立公園部、日本温泉協会の後援を得て、この問題のシンポジウムを開きます。各位の積極的なご参加を期いたします。

日 時 9月28日午後12時30分

以上2つのシンポジウムについて

場 所 気象庁第1会議室

(千代田区大手町1の7)

国電 = 神田、お茶の水

都電 = 錦町河岸

講 演、 話題提供の申込み

メ 切 8月20日

連絡先 杉並区馬橋 気象研究所 神山恵三

(電 (38) -7171)

編 集 後 記

今月号はご覧の通り年会特輯号という形、年会に出席されない方々にも年会の様子が把握されるように、そして気象学各分科の当面している問題点が、学会員全体の問題として考究されて行くようにというのが編集子のねらいである。年会で開催された2つのシンポジウムの中「長期の予報に関する基礎的問題」は今月号と来月号に、「降水要素の成長過程について」は来月号から分載される予定であります。おかげさまで学会誌としての体裁も次第に整つて来ましたが、今月号から活字の組み方を大分変えました。会員諸兄のお気に入りですかどうか、きたんのない御意見を編集部までお寄せ下さいませようお願いします。

なお、新企画として、座談会記事を時々掲載しようということで、第1回として「中共地区の資料が入って」と題する座談会を開催し、その記事を編集することになりました。どうぞ御期待下さい。